

確かな学力向上推進プラン

平成 30 年 2 月 2 6 日現在
江戸川区立瑞江中学校

学力向上に向けた目標値																		
成果指標：																		
教科	平成 30 年度 結果		平成 31 年度 目標値		平成 31 年度 結果		平成 32 年度 目標値		平成 32 年度 結果		平成 33 年度 目標値		平成 33 年度 結果		平成 34 年度 目標値		平成 34 年度 結果	
国語	17.6 問	70.5%	17.9 問	71.5%	問	%	18.0 問	72.0%	問	%	18.2 問	72.6%	問	%	18.4 問	73.5%	問	%
社会	15.9 問	56.7%	16.1 問	57.5%	問	%	16.4 問	58.5%	問	%	16.7 問	59.5%	問	%	17.1 問	61.0%	問	%
数学	12.6 問	45.0%	13.2 問	47.0%	問	%	13.9 問	49.5%	問	%	14.4 問	51.5%	問	%	15.1 問	54.0%	問	%
理科	12.8 問	49.2%	13.1 問	50.2%	問	%	13.7 問	51.4%	問	%	13.6 問	52.2%	問	%	14.0 問	54.0%	問	%
英語	13.6 問	52.3%	13.9 問	53.5%	問	%	14.0 問	54.0%	問	%	14.3 問	55.0%	問	%	14.6 問	56.0%	問	%

学力向上に向けた取組				
論点	第 1 学年	第 2 学年	第 3 学年	成果指標及び数値目標
論点 1 基礎的・基本的事項の定着	・各教科で確認テストを実施し、基本的な事項を確認し基礎学力の定着を図る。また理解ができていない生徒に対して昼休みや放課後を活用し個別指導を行う。 ・数学・英語の授業での少人数習熟度別指導。 ・漢字、計算、スペリングをはじめとするコンテストを実施し関心意欲の向上を目指す。	・各教科で小テストを実施し、基本的な事項を確認し定着を図る。また理解ができていない生徒に対して昼休みや放課後を活用し個別指導を行う。 ・数学・英語の授業での少人数習熟度別指導。 ・漢字、計算、スペリングのコンテストを実施し関心意欲の向上を目指す。	・各教科で小テストを実施し、基本的な事項を確認し定着を図る。また理解ができていない生徒に対して昼休みや放課後を活用し個別指導を行う。 ・数学・英語の授業での少人数習熟度別指導。 ・漢字、計算、スペリングのコンテストを実施し関心意欲の向上を目指す。	・数学・英語の授業での少人数習熟度別クラス の指導で低学力層の基礎基本事項の定着を図り 少しずつ低学力層に基礎基本の力がついてい る。関心意欲を高めることが学力向上につな がると考え、「関心・意欲・態度」の都の平均を目 指すよう授業を工夫する。
論点 2 学習規律の徹底	・チャイム着席の励行、授業の始めと終わりの挨拶、忘れ物をなくす、授業中の私語をしないという最低限の約束事を徹底して守らせる。	・チャイム着席の励行、忘れ物をなくす、提出物の徹底、授業中の私語をしないという最低限の約束事を徹底して守らせる。	・チャイム着席の励行、提出物の徹底、授業に集中するという約束事を徹底して守らせ希望の進路の実現に繋げていく。	・学習規律について教職員全体で統一した内容を確認し意識し取り組んだことで授業中の私語がなくなり、チャイム着席も定着した。
論点 3 生活習慣の確立	・スマイルライフという毎日の記録帳により、毎日の生活のリズムを本人、保護者に意識させ生活習慣を確立させる。（特に食育）	・生活習慣キャンペーンを行い本人とともに保護者の意識の向上を図る。（特に食事・運動）	・スマイルライフ（生活記録）を活用し生活リズムの確認をする。進路に向け保護者に食事・運動・睡眠についての協力を仰ぐ。	・総合学習の中で「食事・運動・睡眠」の学習を 3 年間計画的に実施していくことで生徒・保護者の意識が向上し学力の向上に結び付いた。
論点 4 家庭学習の指導の充実	・毎日家庭学習の課題を配布し翌日に提出させ確認することで家庭学習の習慣化を図る。テスト前には各自で計画表を作成し点検する。	・毎日家庭学習の課題を配布し確認することで家庭学習の習慣化を図る。テスト前に計画表を作成させ家庭学習を計画的に考えさせる。	・毎日家庭学習の課題を配布し家庭学習の習慣化を図る。進路に向け、テスト前だけでなく長期休業中の計画を考えさせる。	・3 年間、毎日の家庭学習の課題提出を続けることで習慣となり低学力層の基礎学力の向上につながっている。
論点 5 言語に関する指導の充実	・各教科や道徳の時間、学活の時間を中心に自分の意見を述べる、他人の考え方を聞く活動を多く取り入れ言語活動の充実を図る。 ・行事ごとの作文や新聞作成を実施する。	・道徳の時間、学活の時間を中心に自分の意見を述べる、他人の考え方を聞く活動を多く取り入れ言語活動の充実を図る。 ・行事後作文を書くことで作文に慣れさせる。	・道徳の時間、学活の時間を中心に自分の意見を述べる、他人の考え方を聞く活動を多く取り入れ言語活動の充実を図る。 ・面接や集団討論、小論文の練習を実施する	・3 年間、スピーチや、運動会・文化祭・学年行事・移動教室実施後の作文を毎回書くことで発言発表力・作文力がつき、言語能力が向上している。
論点 6 教員の学習指導力向上	・お互いの授業を参観することで授業力の向上を図る。特に若手教員の研究授業を各自 1 回以上参観し、中堅・ベテラン教員がその指導にあたることで互いの授業力の向上を図る。	・校内研修の研究授業で授業参観後協議会を開き授業力の向上を図る。また教科部会で互いの指導内容について吟味し学習指導力の向上を図る。	・校内研修で研究授業を実施し、授業参観後協議会を開き授業力の向上を図る。また教科部会で互いの指導内容について吟味し学習指導力の向上を図る。	・全教員が年 1 回以上の研究授業を実施し、研究協議を行うことで若手教員の育成とともにベテラン教員の意識の向上につながり生徒の学力が年々向上しつつある。

教科	各教科の授業改善に向けた指導の重点		
	第1学年	第2学年	第3学年
国語	- 基礎基本を徹底し定着を図るため、毎時間授業はじめ5分程度の漢字テスト、語彙テストを実施。 - 受け身の座学ではなく、主体的に考え発表したり、他の意見に耳を傾けたりするよう、可能な限りグループで話し合い、発表の場を設ける。	- 基礎基本の徹底と復習のため、授業はじめ5分程度の漢字テストや語彙テスト・文法口頭テストを実施。 - 毎時間一人一発言を心掛け、主体的に考え発表するようにしている。また、可能な限りグループで話し合ったり調べたりした成果を発表する場を設けている。	- 基礎基本の徹底と復習のため、毎時間授業はじめ5分程度の漢字テストや語彙テストを実施。 - 毎時間一人一発言を心掛け、主体的に考え発表するようにしている。また、可能な限りグループで話し合ったり調べたりした成果を発表する場を設けている。
社会	- 基礎基本の徹底を図るために、単元ごとに確認テストを実施したり、長期休業等で補充教室を行ったりする。 - 文字を通してだけでなく、ICTを活用して写真や映像を掲示することで、より多面的な視点から考察できる能力を育てていく。	- 知識の完全定着を図るために、単元ごとに確認テストを実施したり、既習内容を踏まえて身近な事象の調査を行ったりする。 - 授業や定期考査において入試問題レベルの記述問題や資料活用問題に取り組みさせることで、応用的な思考力を育てていく。	- 基礎基本を徹底させるための確認テストの実施(月一回)と目標点に到達しない生徒への補充学習の実施している。 - 資料分析力や表現力を向上させるために、生徒が主体的に考えたり、話し合ったり、発表する時間を確保している。
数学	少人数制授業（習熟度）とTTの利点を活用し、机間指導を多く、個の学習状況に合わせる指導を心掛けている。クラス分けの方法を工夫することが今後の課題である。単元や授業の内容によって求められる学習集団が異なるため、クラス分けのパターンを複数用意するなどして、より計画的に進めていく。	少人数制授業（習熟度）の利点を活用し、基礎的基本的事項の定着と発展的な内容の習得を目指す。前者については個別指導において、学習状況を把握しながら苦手分野の重点的な指導を行う。後者については、入試問題などを交えながら数学的な見方考え方を育てていく。	少人数制授業（習熟度）の利点を活用し個の理解度に応じた指導を心掛けている。その中でもまた理解力に差があるので机間巡視等を多くし個別指導の時間もとれるようにしている。
理科	- 生徒が不思議だと感じる現象やつくりの違いを導入で見せたり紹介したりし、その現象について自ら考え、最終的に自分の言葉で説明できるように授業展開を行う。 - 小テストや計算練習により、基礎的内容の定着を図る。	- 小テストや入試問題の活用により、知識の定着を図る。 - 計算問題の苦手克服のため、演習の時間を多く設定する。 - 実験の考察やグループ活動を通して、自ら考え、わかりやすく伝えることを意識させる。	- 授業のはじめの5分程度で前回の学習内容の復習小テストを行い、基礎知識の定着を図る。 - 身近な現象について取り上げることで、興味関心を高め学習意欲を高める。
音楽	題材に適した楽しい教材の提供と指導の工夫により興味・関心を育てる。	- 題材に適した楽しい教材の提供と指導の工夫により表現力を高める。 - 個別の実技テスト等により、一人一人に適した指導は何かを見つけ、適した指導を行う。	音楽への意欲・関心と自己表現力を重視し、音楽のとらえ方や感じ方をきちんと評価していく。
美術	基礎・基本をよく理解できるよう工夫した授業を展開する。1年生は1年をかけて取り組む。上靴デッサン等、物を綺麗に、正確に描く訓練をする時間を設ける。「ものを正確に描く」ということを改めて意識する。	1年次に学んだレタリングやデッサンの技術を生かす授業(版画やパッケージデザイン)を実施し、デザイン関連の授業も本格的に実施する。そうしたうえで色彩感覚を育てる。	2年次に実施したデザイン関連の単元に、グループワークを加える。具体的には新商品の開発企画をする設定のもと、架空のドリンクのパッケージデザインをさせる。(1グループ5～6人程度)
保健 体育	5分間の補強運動の徹底。 - 運動量の確保。 - 対話的な学習形態の充実。	5分間の補強運動の徹底。 - 運動量の確保。 - 対話的な学習形態の充実。	5分間の補強運動の徹底。 - 運動量の確保。 - 対話的な学習形態の充実。
技術 家庭	- 現在の生活に必要な技術（情報処理を含む）を理解し習得させるための実習を中心とした授業を展開していく。 - 作業が遅れぎみの生徒に対しては補充授業を放課後や昼休憩時間に行う。	- 現在の生活に必要な技術（情報処理を含む）を理解し習得させるための実習を中心とした授業を展開していく。 - 作業が遅れぎみの生徒に対しては補充授業を放課後や昼休憩時間に行う。	- 特に少ない授業時数であるが、計画通りの内容で取り組む。クラスの授業時数に差が出ないように進める。 - 情報教育として、プログラミング（計測と制御）を取り入れ、次世代の職業に対応する知識や関心度を高めていく。
外国語 (英語)	- 基礎定着のために授業内での復習を徹底する。 - 授業中一人一回は英語を発話する機会を設ける - 既習の文法や語句を用いて、プレゼンテーションなどの言語活動を積極的に行う。	- 学習習慣を身につけさせるため、予習復習を徹底する。そのためにノートを使い方、毎回の課題を細かく指示する。 - 小テストにより一人ひとりの躰きを把握し、少人数でできる限り個別指導する。	- 総復習問題集を用い、文法事項の復習を計画的に行う。またドリル的な教材を準備し、繰り返し練習させる。 - ペア活動を含め発話の機会を多くし、また少人数クラスを生かし個別指導をまめに行う。